

紙版 ハコブネ×ブックス vol.24

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐwebサイトです。



イカル荘へようこそ

作者 にしがきようこ
出版社 PHP 研究所
発行 2021年5月
ISBN 978-4569789958

review



仕事うまくいかず、家族にどなり散らしてばかりの父親と、父親の機嫌を伺い、体調を崩して寝こんでしまう母親。中学二年生の真子はたどろたえるばかり。両親の諍いに耐えきれず家を飛び出した真子が、町をさまよって入った画廊で個展を主宰していた画家の夏鈴さんと、真子に事情があることを感じとり、ムステイすることになった真子は、落ち着ける場所を得たものの、父親に何も言えないまま涙を流す母親の姿が心に浮かび、苛まれ続けます。それでも、お節介やきの夏鈴さんとその父親とのユニークな親子関係や、一緒に暮らす留学生のデフインの離れた家族に寄せる気持ちに真子は影響を受けていきます。パードウォッチングを契機に家族との絆を取り戻していく真子の姿は、芳しくも再生の希望を抱かせます。



イーブン

作者 村上しいこ
出版社 小学館
発行 2020年6月
ISBN 978-4092893016

review



カットとして物を投げる父親と、それを悪気もなく煽ってしまう母親。お母さんの物の言い方が、怒りの衝動を抑えられないお父さんをキレさせます。離婚した両親それぞれを慮り、どうすれば良かったかと考える中学一年生的美桜里は、自分自身も学校で傷つき心を痛めています。クラスで孤立して不登校になった美桜里は、祖母の知り合いのオジさんと、彼と一緒に暮らすトムという十六歳の少年と共にキッチンカーでのカレー販売を手伝うことになりました。親からの虐待で傷ついた子であるトムから、イーブン(対等)な立場で話をするとというスピリットを教えられた美桜里は、両親もまたイーブンな立場で話ができるようにと働きかけていきます。怒りを爆発させることでしか気持ちを伝えられない父親が、胸に秘めていた思いを告白する場面は胸を打ちます。人がより良く生きるための示唆に富んだ物語です。

特集

モラハラ父さん

DV父さん

モラハラ父さんは、モラルハラスメント父さん。DV父さんは、ドメスティックバイオレンス父さんの略称です。さて、あなたのお父さんはどっちのタイプ？というのは選択肢が少なすぎますね。このところの国内児童文学ではモラハラ父さんやDV父さんの物語が頻出してきます。テレワーク時代の弊害か、家族の積年の病理が顕在化したのか。物語の家族像に思い当たるところがあれば、いち早く適切なアドバイスを第三者に求めてください。怒り続けることは、父親本人にも好ましい状態ではありません。笑って過ごしたいのに、そう生きられない心の事情があるのです。そんな父親の勝手な苦衷に家族は歩み寄るべきか。モラハラ父さんをどう受け入れるかは難しいテーマであり、作品、作家によって、向けるまなざしも違います。モラハラ憎んで父さん憎まずの是非も含め、この厄介な問題へのアプローチをお願いします。



りぼんちゃん

作者 村上雅郁
出版社 フレーベル館
発行 2021年7月
ISBN 978-4577050002

review



転校生の理緒(りお)の世話を先生に頼まれた朱理(あかり)。クラスでからかわれるマスコットの存在である朱理も、もう小学六年生だし、ちょっとはお姉さんぶりたくなって、理緒にもにこにこして自分の話を聞いてくれる理緒に、すっかり仲良くなったつもりで朱理でしたが、理緒のことを何も知らないと感じ、つい理緒の家のことに立ち入った質問をしてしまいました。朱理はやがて、理緒が隠していた、すぐにどなり散らすお父さんの前で、いつも顔色うかがっている彼女の日常を知ります。辛い場所で我慢している理緒を想い、朱理はどうしたら彼女を救えるのかと真剣に考えていきます。無力でも、友だちのために懸命に闘う理緒の父親を通して、この世界の悪の象徴であるオオカミに、朱理が果敢に挑んでいく一途な物語です。



スウィートホーム わたしのおうち

作者 花里真希
出版社 講談社
発行 2021年6月
ISBN 978-4065230534

review



中学一年生の千紗(ちさ)の家は片付いていません。ごちゃごちゃと物が置かれて、あふれているのは、お母さんが家を片付けられないからです。テレビのリモコンがやたらと行方不明になるのは、片付いていない家のせいだけではなく、お父さんが、なんでも放り投げてしまうからです。いつも機嫌が悪く、頭ごなしに注意をし、口ごたえすれば、どなることも叩くこともあるお父さんと、そんな父親に何も言ってくれないお母さん。ある日、テレビでモラハラという言葉を知った千紗は、それが父親に精神的に支配されている自分の家の姿にあてはまることに驚きます。その情報を共有し、モラハラ対策を立てることで、お母さんの心の問題もほじけはじめます。美しい場所には、美しい心が宿るか。落ち込みながらも未来に希望を見出していく千紗のバイタリテイに元気をもらえます。

特集

モラハラ父さん DV父さん



107小節目から (大島恵真) 講談社 2018年

Twitter 連携しています。

@tomostretch

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.24

2021年9月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。